

第3回 広報公聴委員会 会議録

開催日	平成23年7月29日
会議時間	午後1時30分 ~ 午後3時53分
開催場所	第2委員会室
出席委員等	[委員長] 富塚 忠雄 [副委員長] 柏木 恵子 [委員] 和田 恵子, 為田 浩, 岩井 功, 橋岡 協美 久野 妙子, 井原 慶一, 五十嵐 智美
欠席委員等	[委員] 清宮 誠
委員外委員	なし
説明のため出席した者の職氏名	なし
議会事務局	[局長] 福山 聡昭 [次長] 関口 直行 [書記] 向後 昌弘, 矢島 隆成, 鳶田 健志
協議事項	(1) 広報公聴委員会の役割に関する確認 (2) 取手市議会・議会報告会の視察報告(正・副委員長報告) (3) 議会報告会等の実施方法について (4) その他

【決定事項】

(1) 議会報告会の骨子について

主たる報告事項は、予算及び決算関連議案など、議会として報告すべきと判断した事項及びその際の審議経過とする。

開催回数及び時期は、予算及び決算関連議案を審査した定例会終了後、年2回を目安とする。

具体的な開催日時等については、広報公聴委員会にて検討した案を、議長が会派代表者会議に諮って決定する。

(2) 次回日程

平成23年8月15日(月)午後1時30分から

【報告及び承認事項】

(1) 広報公聴委員会の役割に関する確認

議会報告会の実施方法について検討、取りまとめ、議長へ答申する。

議会報告会の開催段階では、配布資料の作成など、事務局的作用を担う。

(2) 取手市議会・議会報告会の視察報告(正・副委員長報告)

以前から実施していた議会報告会は、市民の参加が少なかったため一時期休止していたが、本年3月議会に再開を望む陳情が提出され、採択されたことから今回の実施に至った。

常任委員会(3委員会)と議会基本条例策定調査特別委員会からの報告ほか、議員提出議案についての報告があった。

常任委員会報告は、議案の概要と賛否が主な内容であった。

質問、要望が入り混じったやり取りで、進行役による交通整理が重要と感じた。

複数回を開催した前回の手法では、同じ市民が参加していた。参加者が、特定議員の支持者に偏っていると感じた。もっと多くの市民に参加してもらえるような工夫が必要ではないか。

総じて、このようなスタイルなら、比較的容易に実施可能であると感じた。

【主な意見等】

(1) 協議の進め方について

議会基本条例をつくった理由に立ち返り、考えることが大切である。

市民に「開かれていること」、「近いこと」を感じてもらえることが大事と考える。

今まで、市議会に関心のなかった人たちを、どうやって引き込むか。

個人ではなく、議会としてどう報告するのかということが大事である。

報告すべき内容(「誰に」、「何を」)を先に決定すべきである。報告すべき内容が決定すれば、他はおのずと決まってくるのではないか。

(2) 報告すべき内容等について

「議会判断」、「議員間討議」など、これまで報告されていない情報を提供してはどうか。

イデオロギーや見方、考え方が違う28人の意見をそろえることは困難。市民の意見を聴くことに力を入れたほうが良いのではないか。

審議過程を報告することの意義は大きい。議員間討議を含め、議会の総意をまとめる努力が必要である。

報告内容として、委員会での議論も必要だが、多くの市民に理解していただくためには、議案の趣旨説明も必要となるのではないか。

今までの議会は、執行部対議会。これからは、議員間で丁々発止と議論するためのルールが必要となる。

「予算」をキーワードとすれば、予算審査、決算審査関連議案が重要案件となる。決算議案のある9月の議会終了後に、試行的に開催してみることも必要ではないか。

(3) 実施に関する各種方法等、その他について

理解しやすい資料の調整が重要である。

各定例会ごと(年に4回)に、開催すべきではないか。

年4回は理想かもしれないが、報告するだけでなく、市民からの意見等を今後の議会運営にフィードバックするためには、年2回くらいがよいのではないか。

まず1回やってみてはどうか。その反省を踏まえ、2回目以降の実施方法を再検討してみてはどうか。

はじめ、委員長は来年2月くらいと言っていたが、今日の意見は、2回に変化している。その理由を聞きたい。

委員のコンセンサスを図るのに時間を要すると思っていたが、取手市議会のように、各常任委員会の委員長が報告する形態であれば、比較的早くまとまることも考えられるのではないかと思った。

【次回まで検討事項】

- (1) 本日の協議経過を踏まえ、実施要綱の案について各会派等で検討し、次回の委員会で報告願いたい。

以上のとおり会議要録を作成し、ここに署名する。

委員長 富塚 忠雄